

平成29年度 エコパートナーに委託した四日市公害と環境未来館内で行う環境学習等講座の一覧(四日市公害と環境未来館分) ※1回の講座分を委託

受付番号	実施日	団体名・企業名 団体の活動内容	提案事業名 委託事業の内容	参加人数 当日の振り返り
1	7月2日	四日市ダンボールコンポストの会	ダンボールコンポストによる生ごみの堆肥化講座	12名・9名(2回開催)
		グリーンカーテン・ダンボールコンポストを市民に普及することで廃棄物を減少させ、市民の環境意識を高め市民の力でCO2の削減を行う。	堅実な課題である地球温暖化の状況とCO2削減に向けての講義、生ごみの堆肥化によるごみの減量化、資源化に向けての講義を行い、2週間後に実際にやってもらったダンボールコンポストのフォローアップ研修を行う。	ダンボールで作ったコンポストでたい肥を作るにあたっての注意事項などをPPで講義し、実際にたい肥で作った作物を参加者に見せることでやる気を起こさせたのが評価できる。
2	7月22日	四日市再生「公害市民塾」	四日市公害の歴史と課題	50名
		四日市公害の歴史を保存し、語り継ぐことを目的として、資料保存や例会の開催を行っている。	「四日市公害を忘れないために」市民の集い2017 水俣市より講師を招き、講演会を実施 (演題「)四大公害訴訟を考える。」	熊本県の水俣市の水俣病に直接かかわった元労働組合の長を招き、四大公害訴訟を考える機会とした。
3	8月3日	四日市西高校高等学校自然研究会	身近なふくろうのお話と工作	12名
		四日市市が実施する「産業と環境が両立する街づくり」に向けて、四日市市にある豊かな自然をアピールするとともに、現存する貴重な生物を保護し、次世代にまで引き継いでいくよう活動する。	映像とクイズと工作を駆使しぐれを守ることが身近な自然を守ることになりふくろうの森を守る大さを実感させる。	研究会のメンバーが参加者にクイズ方式でふくろうの生態を教え、工作も同様に手足足取りで教えていたため、簡単に参加者が理解できた。
4	8月17日	(株)ロハスネット	アクアリウムを作ろう	42名
		ロハスネットは一般的の企業体です。	夏休みに合わせて自分の手で作ったアクアリウムを観察することで食物連鎖について学び、結果として生物の多様性に気づいていただく。	夏休み最大の応募があり、抽選会を実施した。応募者120名、参加者42名と激戦の講座であった。参加者の評判上々でまたやつてほしいとの声も聞かれた。
5	10月28日	「脱原発」を考える市民講座・四日市	四日市公害からフクシマへ	34名
		市民への講座を通じて、「脱原発」を考える機会とする。	福島の現状と環境再生の課題について、四日市公害の経験と絡めて	四日市公害の経験を踏まえて、福島の環境再生の課題についてわかりやすい講演であった。四日市の経験がどういかされるのか、来場者は興味深く聴講していた。
6	12月16日	CSO環境よっかいち	自然エネルギーと四日市	30名
		四日市公害の歴史に学び、環境問題の解決に努めるため、市民とともに学習・調査・研究を行います。	自然エネルギーの活用が盛んになるにつれ、見えてきた課題について、太陽光発電の現状や専門家の講演を通して、講師と共に考える。	環境権に関する裁判を巡る弁護士の講演は、わかりやすかったが、前段の太陽光発電を巡る現状の講演が、ある程度の予備知識を前提とした内容で、一般聴講者には難しく感じられた。
7	1/7	四日市大学エネルギー環境教育研究会	くるくるモーターと電気クラゲを作って遊ぼう	32名
		地域に特色のある持続可能な社会を形成するためのプロジェクトを興して知的貢献を行うことや、そこから得る知見を次世代に繋いでいくことを目的とする。	乾電池とニクロム線と、磁石を用いた簡単モーターを作った。また、静電気をつくる実験を通して、その「しづみ」を学び、エネルギーという目に見えないものを実感してもらうとともに、暮らしの様々な場面で利用されていることを学ぶ。	参加者が年少であったため、電気の仕組みを教えるのが難しかった。工作も電池、ニクロム線、磁石を使ったモーターを作ったが、やはり難しく保護者の手伝いが必要であった。(感電するような工作ではなかった。)
8	2月9日	なたね通信	桜地区に生息する絶滅危惧種の保護、保全活動	17人
		環境保全のための意識を高める市民と環境が接するきっかけをつくるため、出前授業や情報誌の発行、自然環境調査などを行っている。	桜地区の豊かな自然環境を紹介しながら、開発にともない絶滅危惧種を移動させた取り組みについて事例報告を聞き、自然環境を守るために必要なことを学ぶ。	桜地区的豊かな自然環境を紹介しながら、開発にともない絶滅危惧種を移動させた取り組みについて事例報告を聞き、自然環境を守るために必要なことを学ぶ。メガソーラーに伴うリスクと対策について講演された。
9	2月10日	グリーンボランティア「森林づくり三重」	竹で工作し、竹林をきれいに！	32人
		森林と市民をつなぐ活動を通じて、環境による影響とその大切さ、森林の持つ公益性、木のぬくもりや木の恵みの重要さの認知とその普及を行つ。間伐材等を使って作る木工工作の体験指導	子どもと保護者を対象に、竹林で採取した竹を使用し、カエルの壁掛けを作る。工作を通して、里山(竹林)管理の大切さを啓発する。	伐採した竹を使用し、壁掛けを作った。小さな子どもでも気軽に工作が出来、好評であった。反省点については、館内に燻蒸をしていない竹を入れてしまつたことである。
10	2月17日	コンビナート語り部の会	四日市公害から学ぶ環境と持続可能な社会づくり	28人
		コンビナートOBとして、知識、技能、経験、人脉を生かし、コンビナートのことや四日市公害のことを後世に伝えていく。	全国の「公害資料館」から見えてくるものとして四日市大学の神長教授から講演をしてもらう。また、四日市公害の過去・現在・未来を考えるための機会として、様々な世代が集まり、パネルディスカッション及び参加者と意見交換を行う。	
11	3/18	大瀬古町子供と地域の環を育む会	あすなろう鉄道沿線のESD活動 市民の意見交換会	20名
		日永地区を拠点として、環境に優しい公共交通の利用促進として、内部・八王子線の利用促進、美化活動を行っている。	市民一人一人の自発的な活動を促す取り組みを市民ぐるみに推進している活動事例を報告するとともに、沿線の高校生を中心としたワークショップを開催し、車社会から環境にやさしい鉄道の利用促進を促す、次世代育成を行う。	あすなろう鉄道沿線の駅の清掃と花を植える活動を広げるため、鉄道を利用する高校生たちが、事業実績を報告した。今後の環を広げるにはどうしていくべきか、意見交換会がなされた。